



袋田の滝キャラクター「たき丸」

大子町 土砂災害・洪水 大子地区ハザードマップ



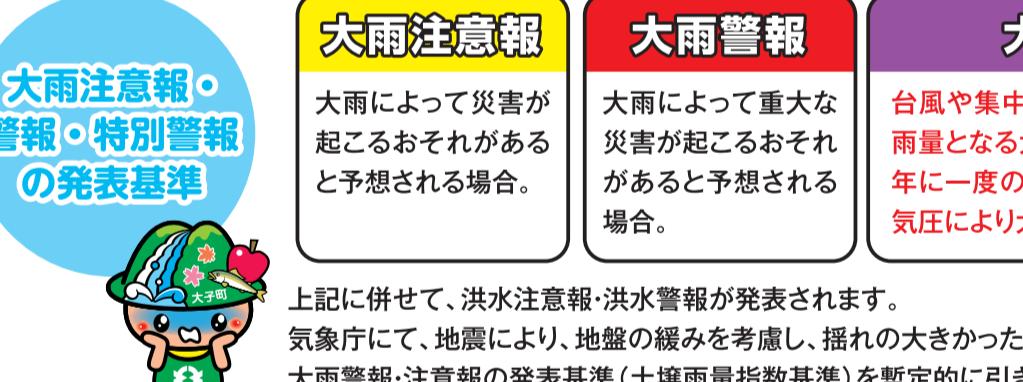
保存版

風水害に備えて

大雨情報キャッチ



こんなときのわが家の安全対策。



上記に併せて、洪水注意報・洪水警報が発表されます。
気象庁にて、地震により地盤の緩みを考慮し、揺れの大きかった市町村については、大雨警報・注意報の発表基準（土壤雨量指基準）を暫定的に引き下げて運用する場合があります。

水害時の心得



●被害の軽減
扉の下の隙間から汚水が入ってくるので、「土のう」や板などで全面を囲み、タオルで隙間をふさぎます。また、ボリタンクなど軽い物は事前に屋内に移しましょう。



●避難の呼びかけに注意を
危機が迫った時には、緊急告知FMラジオや広報紙などから避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には速やかに避難しましょう。

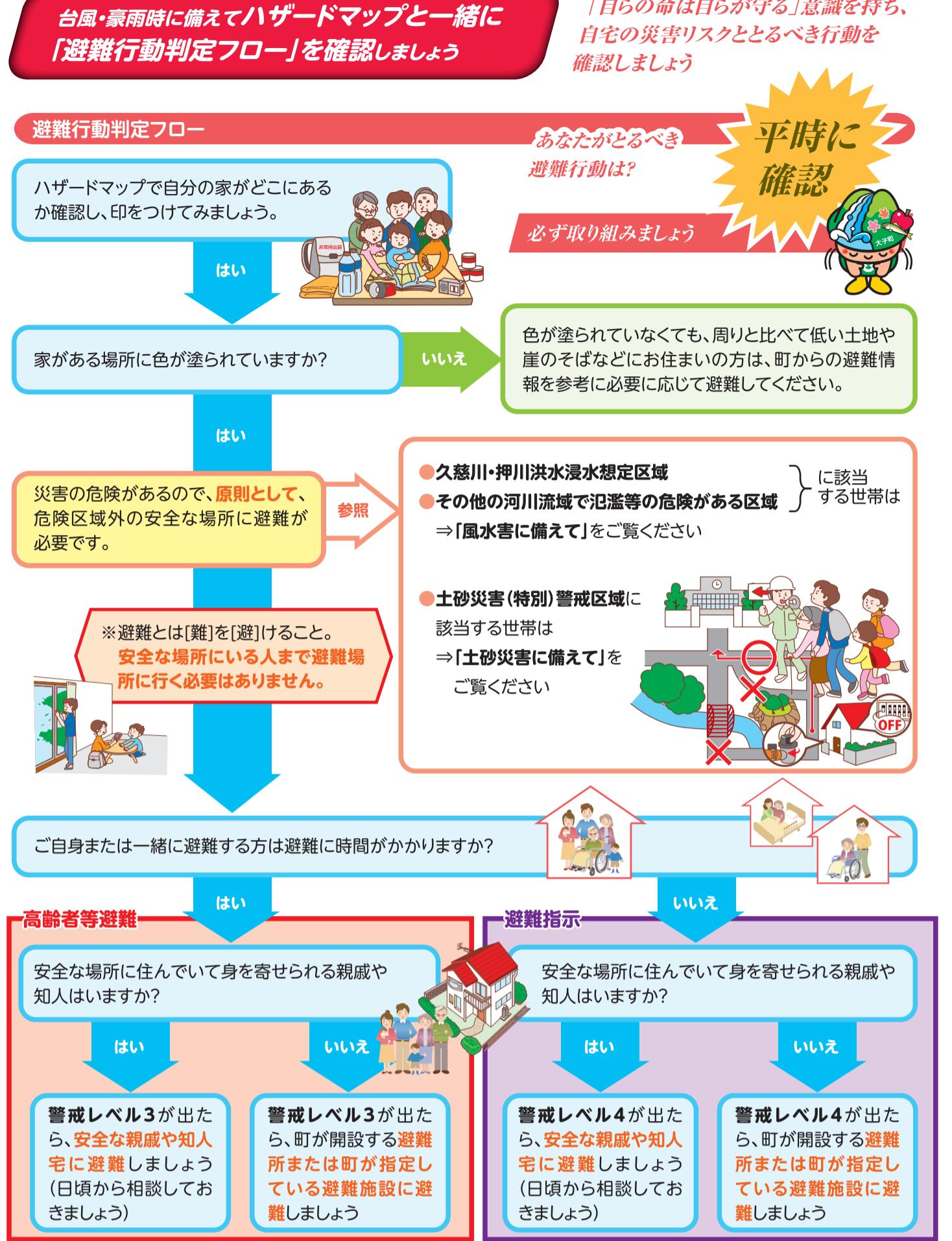


●避難の前に確認を
避難する時は、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓を閉め、床下の通気口などをふさぎ、戸締りを確認しましょう。



●歩ける深さ男性約70cm、女性約50cm
洪水の場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmでされています。ただし、この深さ以下でも危険が生じる場合があります。危険を感じた場合は、深さに気を使わなく、高い場所で救助を待ちましょう。

ハザードマップの見方 / 避難行動判定フロー



避難時の感染症対策

新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、災害時には、危険な場所にいる人は避難することが原則です

自らの命は自らが守る意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう

知つておくべきポイント

内閣府(防災担当・消防庁)

避難先は、小中学校・公民館だけではありません。
安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

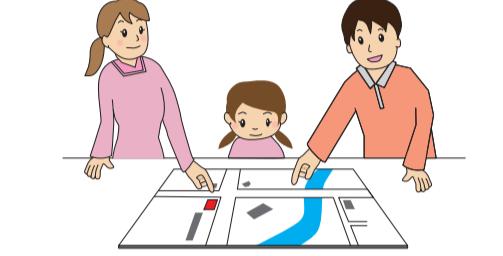
マスク・消毒液・体温計が不足しています。
できるだけ自ら携行してください。



町民の皆さんに平常時からお願いしたいこと

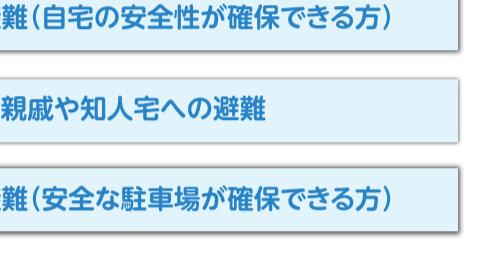
自宅の安全性の再確認

ハザードマップにより、自宅の安全性や避難の必要性を再度、確認してください。



分散避難の検討

避難所が過密状態になることを防ぐため、分散避難を検討してください。



避難所生活での留意事項

町が開設する避難所では、新型コロナウイルス等の感染症拡大防止のため以下を徹底します。

避難者全員の検温・手指消毒・マスクの着用

身体的距離の確保

定期的な換気

定期的な避難者の健康状態の確認

などを徹底します。

なお、避難所生活では以下の事項に留意してください。

マスク・体温計・ウェットティッシュなどの衛生用品はなるべくお持ちください。

町(避難所担当職員)が行う、避難者の定期的な健康状態の確認にご協力ください。

こまめに手洗い(食事前・トイレ使用後など)を励行するとともに、咳チケットなど基本的な感染対策を徹底してください。

発熱や咳の症状がある場合は、速やかに避難所担当職員に申し出てください。

※上記の日数・組み合わせは一例です。ローリングストック法等で1週間分の非常食を蓄えておくとより安心です。

*1週間分の飲料水、また生活用水も備えましょう。飲料水は1人1.3リットル×家族分の準備です。

備蓄品および非常時持ち出し品

非常時持ち出し品 (とっさの場合に持ち出せるようじゅくさんくつめておきたい)

現金	栄養補助食品	下着・靴下・タオル
保険証	飲料水	防寒用ジャケット・雨具
預金通帳	缶切り	長袖・長ズボン
印鑑	レジャーシート	厚手の手袋・マスク
免許証	携帯ラジオ	携帯用カイロ
救急箱・体温計・除菌シート・消毒液	懐中電灯	ヘルメット・防災ずきん
食品	乾電池・モバイルバッテリー	カッター
アメ・チョコレート	ライター・マッチ	歯ブラシ



備蓄品 (3日以上は自力で生活できるように準備)

食品(レトルト食品、アルファ米、缶詰など)	ビニール袋
飲料水(一人1日3リットル程度)	カセットコントローラー
給水用ボトル・給水袋	ラップフィルム
ティッシュペーパー・ウエットティッシュ	洗面用具
紙皿・紙コップ・割り箸	工具セット



ローリングストック法

備蓄の新しい方法

1～2日目	冷蔵庫・冷凍庫の食材を活用	調理器具の備え
食パンや野菜等は自然解凍により食べることも可能。	カセットボンベ1本で約60分使用可能。	カセットコンロ・ポンペ
停電時、クーラーボックスや保冷剤等を活用して食材の保存を。	停電時、野菜や食パン、野菜、冷凍食品等の備蓄を。	カセットコンロ・ポンペ
停電時等、冷蔵庫の食材や非常食を調理するために必須。	停電時等、冷蔵庫の食材や非常食を調理するために必須。	その他アイデア
※上記の日数・組み合わせは一例です。ローリングストック法等で1週間分の非常食を蓄えておくとより安心です。	※このページの記入をはじめると、避難行動判定フローをよく読みましょう。	※このページの記入をはじめると、避難行動判定フローをよく読みましょう。

*1週間分の飲料水、また生活用水も備えましょう。飲料水は1人1.3リットル×家族分の準備です。

記入例

洪水浸水

土砂災害

自宅が危険区域内	○自宅が危険区域内にあります	□自宅が危険区域内にありません
私の地区的避難所	○○○公民館	○○○学校
避難所までの経路をマップに書き込み	○書き込みました	□書き込みませんでした

連絡先を整理しておきましょう。

あしたの世帯の所在がわかるように避難先を知らせておくとともに、勤務先・学校・かかりつけ医など何かあったときの緊急連絡先などを記入しましょう。

行政機関の連絡先	電話番号					
災害対策本部(大子町役場)	72-1111					
消防(火事・救急・救助)	119					
警察(事件・事故)	110					
住 所	氏 名	電 話	メ ノ			
家庭の連絡先	氏 名	電話(会社・学校)	住 所	メ ノ		
親戚の連絡先	氏 名	電話(会社・学校)	住 所	メ ノ		
家族の救急用データ	氏 名	生年月日	血液型	アレルギー	常備薬	病歴

大子町ホームページ「ハザードマップ」
<https://www.town.daigo.ibaraki.jp/page/005523.html>

気象庁「あなたの街の防災情報」
https://www.mext.go.jp/bosai/#pattern=default&area_type=class20&area_code=0836400